

当事者団体連絡会報告

(平成 25 年 7 月～平成 25 年 9 月)

- 内 容 (1)障がい者の暮らしの中の問題点として、理解者・支援者の確保について検討。
(2)相談支援事業についての当事者側からの「気づき」などの確認。

1 「理解者・支援者の確保」についての検討

前年度後半から「理解者・支援者の確保」を目的とした対談会を企画・検討し、下記内容にて実施した。

- 日 時 8月25日(日)午前10時～12時
場 所 グリーンパレス春日井 第1会議室
対象者 地域で福祉に関わっている人及び春日井市在住・在勤・在学の方
参加者 50人
テーマ 「春日井のまちで元気に楽しく」
～障がいのある人も生きにくさのある人もみんな一緒に～
目 的 春日井のまちで「障がい」及び「障がい者」の理解を深め、日々の暮らしの中で「少しの支え」に繋げていく。
内 容 ・中部大学齋藤ゼミ作成DVD上映
「春日井市内で一人暮らしをしている3人の障がい者の生活」
・対談会
・質疑応答
出席者 木全和巳氏(日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教授)障がい者について
河野弓子氏(NPO法人あっとわん代表理事)障がい児について
司会進行 田代波広氏(尾張北部障害保健福祉圏域地域アドバイザー)

【当事者団体としての反省、今後の活動について】

- ・地域の福祉に関わっている人を主な対象に考えたが、参加者が少なかったため、今後は周知方法を検討する。
- ・当事者団体としてできることは、啓発活動である。
- ・少人数を対象に企画する等、今年度後半で第2弾の啓発活動を検討する。
- ・DVDは、生活の様子がわかりやすく、今後活用されることを望む。
- ・アンケート自由記載の項目にも多くの感想が寄せられた。今後の活動の参考にしたい。

2 相談支援事業について

事業所が増えたことでの現状として

- (1)電話がつながりやすくなった。
- (2)事業所の法人系列を気にせず相談しやすくなった。